

和歌山病院での実習を終えて



中塚 瑞記

2日間という短い期間ではありましたが、大変貴重な実習になったと感じています。大学病院での実習とは異なった内容であり本当に勉強になりました。大学病院では肺癌の患者の割合が多いため、気管支鏡検査の見学や化学療法についての肺癌についての内容が多かったのですが、和歌山病院では結核の感染機序や病態、検査所見などを考えていくというセミナーや、実際に N95 マスクを着用しての結核病棟の見学など、とても貴重な経験となりました。また、胸部レントゲンの読影について、僕は強い苦手意識があり一体どこを見ればいいのか何を見ればいいのかなどほとんどわかっていない状況でしたが、南方先生に読影法を教えて頂いたことで何を読み取るべきなのか、どこを見ればよいのかということが完璧ではないですが理解できたと思います。

今回の実習では駿田先生、南方先生のセミナーはただ先生から教わるだけでなく自分たちで考えてから答えに導くという形であり、暗記ではなく理解することができたと思います。日頃からもっと理解する勉強をしなければならぬと痛感しました。気管支体操だけは理解ではなく体に覚えさせました。

南方先生に連れて行って頂いた食事会では御坊市についてや、日本史についてなど様々なお話を聞くことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。先生がいろいろな学生のことを知っていたので本当に驚きました。

南方院長先生・駿田副院長先生をはじめ、和歌山病院のスタッフの方々には大変お世話になりました。2日間本当にありがとうございました。